

隠岐国学習センターでは高校生目線の地方創生について意見交換



山本大臣が視察で来島 “自助の精神” 海士を応援

9月18日(日)、衆議院議員で地方創生や行政改革などを担当する山本幸三内閣府特命担当大臣が視察で海士町を訪れました。出迎えた山内町長らとともにキンニヤモニヤセンター各店舗、続いて応用藻類学研究所を訪れ、海士町のこれまでの挑戦事例について概要説明を受けました。その後、産業振興の屋台骨であるCA S凍結センター、続けて隠岐潮風ファームを見学し、現場の声に耳を傾けました。

村上家資料館では、組織を越えたまちづくりチーム「明日の海士をつくる会(「あすあま」)のメンバーらと懇談し、隠岐国学習センターでは島前高校生とも車座で対話。山本大臣は、「地方創生で一番大事なのは『自助』の精神。自立して活路を切り拓いてきた海士町の自助の姿勢は、今こそ他の町村が見習うべきものだ」と語りました。

講演会レポート

これからの日本～海士町への期待

講師： 評論家 森田 実氏



政治評論家の森田実氏による講演会(中央公民館主催)が、10月2日、島民ホールで開催され、「自立・挑戦・交流」と人と自然が輝き続ける島に「を経営指針に掲げる海士町への期待を語られました。森田氏は、政治評論家としてテレビ、ラジオ、講演、著作などで幅広く活躍。現在は中国山東省の山東大学名誉教授、東日本国際大学客員教授に就任されています。
(中央公民館 村尾 由美子)

スモール・イズ・ビューティフル

から自由主義経済へ

講演では、まずヨーロッパの学者が1970年代初めに提唱した「スモール・イズ・ビューティフル」という考え方を紹介。「小さいものにこそ未来がある。大切にしないといけない」とするこの理論は、その後70年代後半に登場した「自由主義経済で世界を繁栄させる」という風潮により否定され、自分さえ良ければという思想が広がりました。その自由主義経済の旗手であったアメリカの影響に陰りが見える今日、近い将来、世界の秩序や価値観が再び大きく変わるのではないかと指摘されました。

「海士町イズム」を広めたい

次に、指導者層の力量が非常に低下していると言われる中で、山内町長との出会いを紹介。

「山内町長はすごい影響を与えている。初めて海士に足を踏み入れたところ、この町が綺麗で、まさにスモールイズビューティフルだ」と感想を述べられました。

安易な町村合併をせずに自立を貫いた町には品格がある、海士町はチリひとつない綺麗さがあると賞賛。そして、日本人の原点はこの風景ではないかと話し、自然との接点で人間の道徳は形成され、自然とともに生きることで人間の道徳が社会に定着すると分析。自然から離れたものは道徳からはずれるとの持論から、「海士町哲学」、「離島哲学」を整理して、この哲学「海士町イズム」を基に日本人の思考を変えることに残りの人生で取り組んでみたい、と語られました。



“青春” AMAワゴン10周年 海士町を変えた風

元気な海士

パワー溢れる海士人の
活動・活躍をご紹介します！

9月10日(土)、マリンポートホテル海士において、AMAワゴン10周年の記念イベントが行われました。

AMAワゴンとは、都会の若者が海士町へやって来る「都市農村交流プロジェクト」の一環で、一橋大学(当時)の関満博先生(現在は一橋大学名誉教授、明星大学経済学部教授)の研究室と人間力推進プロジェクトが共催し、平成18年から3年間にわたって20回開催された2泊3日のバスツアーです。

このツアーで、毎回20〜30人、延べ500人近くの若者が海士町を訪れ、島の暮らしに触れ、学び、衝撃を受け、そのクチコミが海士ファンの増加を後押しし、参加者の一部は実際に定住。さらに、出前授業の講師や関係者として訪れた人の中には、岩本悠さんや西上ありささん、豊田庄吾さんなど、その後の海士町に多大な影響を与えている人もいます。

もともとは、教育から地域の活性化を図る実証実験という位置づけであり、「正直最初は抵抗があったけど、AMAワゴンに出会って都会の色々な学生と話すようになって、逆に海士の良さに気付いた。今思うと、必要な“風”だったんだと思う」(海士出身、北分区在住、平田昌由さん)との声もあります。



但馬屋の宇野茂美さんも登場(右から2番目)。その含蓄ある言葉に感銘を受けたAMAワゴン参加者は数多い。尾野さん(右)は、「たくさん迷惑をかけたけど、海士の皆さんの懐の深さに受け入れられて少しずつ仲間になれた」と振り返る

「海士町への新しい人の流れを生み、人づくりの大切さに気付かされるキッカケにもなった」と山内町長が語るように、Iターンを含めた多様な人材が刺激しあうことで活気あるまちづくりを進めている現在の海士町スタイルが定着する片棒を担いだとも言える、大胆不敵で革新的だった、AMAワゴン。「失敗も多かったけど、想いは純粹で、交流しあう中でお互いが成長していった。まるで青春時代のように」と語る参加者も。今回の記念イベントでは、首謀者である尾野寛明さん(スタート当時は一橋大学4年生)はもちろん、これまでのAMAワゴン参加者や、町長を始め当時の受け入れ側だった人、知らぬ間に巻き込まれていた人、AMAワゴンの伝説(うし)を耳にして興味をもって参加した人など、約30名が参加して、同窓会のような反省会のような、異様な熱気を帯びた時間となりました。

森林回復へ 記念の植樹

10月4日(火)、西ノ島町中央公民館ノアホールにおいて、隠岐島前森林復興公社の創立20周年記念式典が行われました。

復興公社は、松くい虫により壊滅的な被害を受けた島前地域の森林を再生し、水源涵養や景観の維持、土砂の流出を防ぐ等の森林がもつ大切な機能を回復させるため、平成8年に設立されたもので、被害を受けた1000haのうち、これまでの20年間でおよそ465haの植栽を行ってきたほか、一方では林業従事者の育成と確保にも取り組んでいます。

樹木医の佐藤仁志さんが「森は海の恋人・地域の宝」と題した講演を行った後は、島根鼻公園でヤブツバキとトベラ72本の植樹を行い、「今後も緑豊かな景観の回復に努める」(復興公社理事、小濱清人さん)と、自然と調和した地域づくりへの決意を共有しました。

